

第7章 河川空間の利用状況

7-1 河川敷の利用状況

(1) 河川敷の利用状況

庄内川の直轄管理区間における高水敷は約370haで、散策、スポーツ等の利用で年間約260万人が利用しているが、その内約51%を民有地が占め、残りが官有地(約49%)となっている。高水敷の民有地は、中流域を中心に主に小規模耕作地として利用されている他、ゴルフ練習場や自動車学校等の民間営利施設としての利用もされている。

官有地は、下流域を中心に主に緑地・公園などとして利用され、野球場、テニスコート、ゴルフ場、ゲートボール場等のスポーツレクリエーション施設として利用されている。

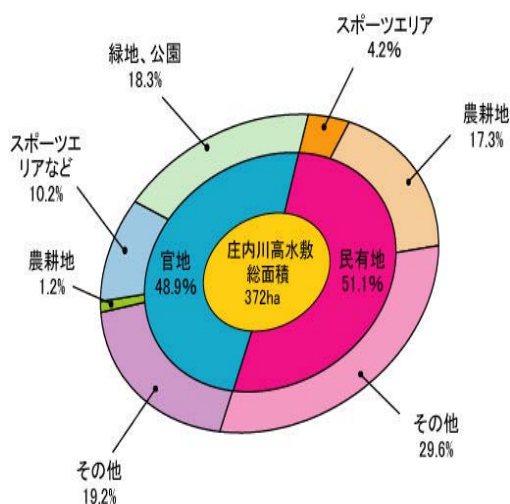


図-7.1 高水敷の利用形態

庄内川の高水敷の約20%を占める緑地・公園には、主なものとしては庄内緑地(小田井遊水地)、矢田川高水敷などの都市計画緑地などがある。この他にも下流域の塩性湿地や、上流域の公園整備の要望が高まっているが、高水敷の公園利用には、洪水時の土砂堆積による高水敷高さの上昇や、植生変化による粗度変化等の課題も残されており、治水、自然環境との調和が求められる。

これらの空間は、人々のコミュニケーションの場、憩いの場として利用されるのをはじめとして、土岐市や多治見市の花火大会、織部祭り(土岐市)、名古屋市おりべまつりのきねこさ祭り(名古屋市中村区)、りばーぴあ庄内川など、河川空間を利用した行事等が盛んに開催され、地域の人々に親しまれている。また、子供達の野外学習、環境学習等総合学習の場としても活発に利用され、現地見学会や水質調査、ボランティアによるゴミ拾い等、学校や各団体での様々な活動が行われている。

上流の盆地部の河原は、多治見市、土岐市の花火大会や織部祭り等の伝統的な利用が行われている。また、水辺の楽校などが整備され、人と川がふれあう場所として親水活動等に利用され、市街地の貴重なオープンスペースとなっている。

また、山間溪谷美に富んだ虎溪山等の溪谷部は景勝地として人々に親しまれている。

中流部では、高水敷は農耕地や公園、グラウンド等に利用されており、瀬と淵や砂礫の河原が分布する水辺では、水遊びや自然観察の場として利用されている。

下流部では、高水敷は古くから農地として利用されているほか、庄内緑地等の都市計画緑地、高校のグラウンド、ゴルフ場等が有り、スポーツ、散策など幅広く利用されている。また、矢田川の全国選抜名古屋花火、きねこさ祭り、レガッタなどの水面利用も行われ、市街地の貴重なオープンスペースとなっている。

なお、下流域における名古屋市域のほとんどの高水敷は、広域避難場所に指定されており、都市災害における防災空間として重要性が高いものとなっている。地震など災害時に一般道がマヒして緊急の物資輸送が困難な場合に、高水敷を利用して物資輸送ができるように緊急河川敷道路の整備が進められている。



図-7.2 グラウンド



図-7.3 耕作地



図-7.4 ゴルフ場



図-7.5 自動車学校



図-7.6 土岐川水辺の楽校付近(多治見市)



図-7.7 庄内緑地(小田井遊水地)

表-7.1 庄内川の河川利用状況(イベント)

河川名	名称	期間	場所、内容
庄内川	尾張西枇杷島まつり	6月第一土・日曜	美濃路街道沿い(名鉄二ツ杵駅～西枇杷島駅間) 土/同駅間庄内川河原で花火
	りばーぴあ庄内川	11月上旬	庄内緑地公園において、各種イベント、沿川市町村紹介パネル展示など開催。
土岐川	土岐花火大会	7月下旬～8月上旬	土岐市 土岐川中央橋・浅野河原間 約3千発の花火
	多治見花火大会	8月1日	多治見市 土岐川昭和橋・多治見橋間
	織部祭り	8月上旬	土岐市 メインイベントの「野焼き窯」は参加者が河原で作陶から焼成までを自らの手で創り上げる。
矢田川	全国選抜大名古屋花火	8月第一土曜	矢田川新川中橋上流～三階橋で開催。 全国選抜大名古屋花火として人気。仕掛け、打ち揚げ花火など1万発以上。



図-7.8 きねこさ祭り

きねこさ祭り

七所社西 300m ^{まんぼおほし} 万場大橋北側
 祭り当日の役者(祭りの中心者)が笹竹を持って、庄内川に向かい、川の中程で竹を立て、一人が登り、竹の倒れた方向でその年の吉凶を占う勇壮な神事である。

このほか、多治見市市制記念花火大会、矢田川全国選抜大名古屋花火などが行われる。



図-7.9 全国選抜大名古屋花火



図-7.10 織部祭りの様子



図-7.11 りぱーぴあ庄内川の活動風景



図-7.12 緊急河川敷道路

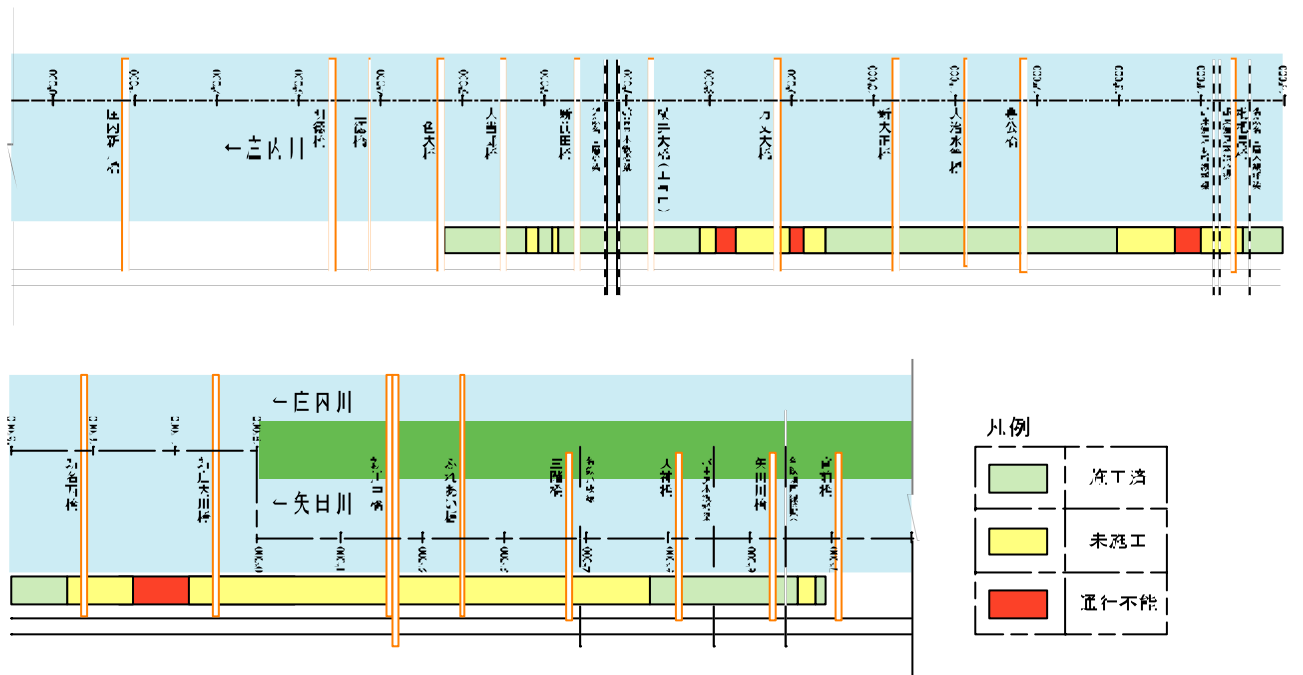


図-7.13 緊急河川敷道路の整備状況

緊急用河川敷道路は、地震等の災害時に資機材や物資輸送をするため河川敷に設けた道路。庄内川では、庄内川左岸一色大橋～矢田川宮前橋間 19.9km が計画対象区間であり、現在、約 50%が整備済みである。



図-7.14 高水敷の利用状況(下流)

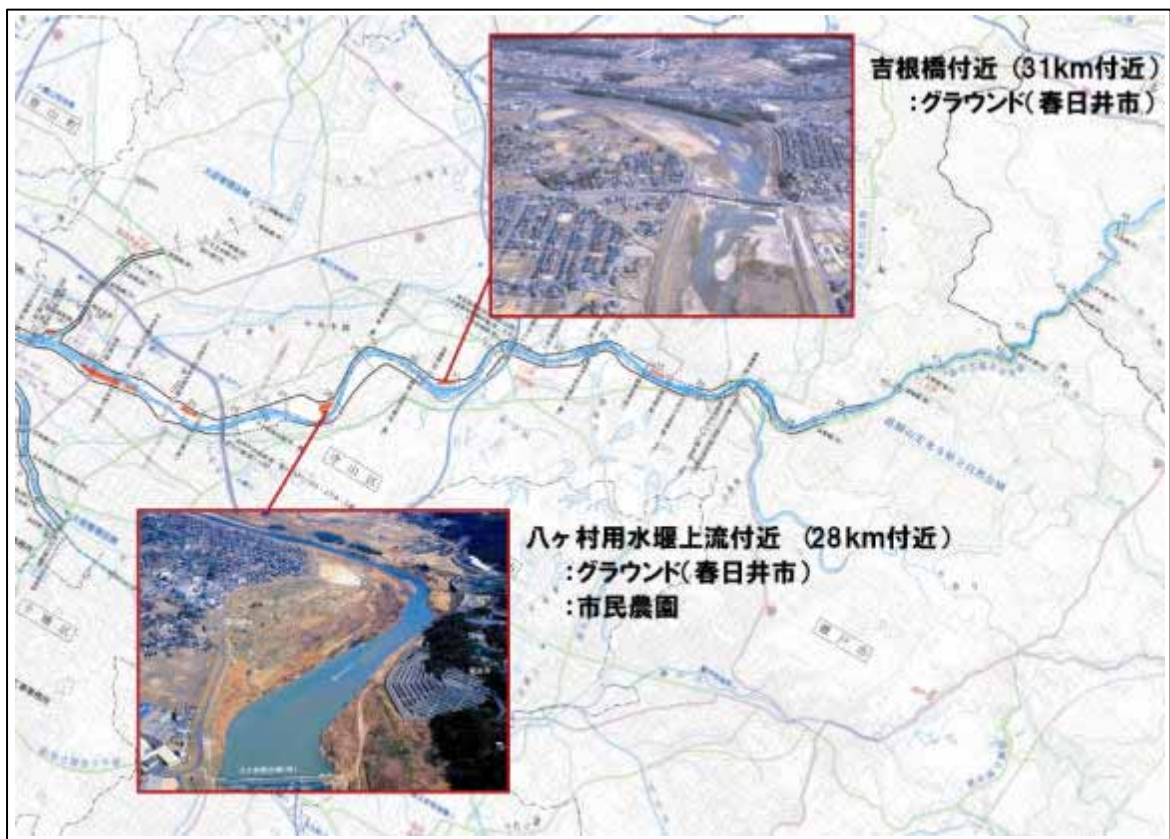


図-7.15 高水敷の利用状況(中流)



図-7.16 高水敷の利用状況(上流)

(2) 堤防の利用状況

庄内川の直轄区間における堤防は、約 80%が堤防道路となっているため中流域、下流域の交通量は非常に多い。

平成 11 年道路交通センサスによる通過交通量の調査によると、県道 106 鳥ヶ地新田名古屋線、中村区日比津町古川（庄内川左岸 13k 付近）地点における交通量は、平日 24 時間交通量で 30,756 台、平日ピーク時間交通量では 2,155 台（大型車類は 269 台で 1 割強）にも達した。

大型車両の通行も多いため堤防は弱体化し、交通量が多いために川へ接しにくくなっている。



図-7.17 堤防道路の利用状況



図-7.18 クラックが入った状況

表-7.2 通過交通量と堤防道路延長

河川名	岸区別	位置	区分	路線番号	路線名	観測地点名	平均 24 時間自動車類交通量 (台)	平日ピーク時間交通量 (台/時)	
								大型車類	自動車類合計
庄内川	左岸	6.0k	県道	106	鳥ヶ池新田名古屋線	名古屋市中川区中洲町	13,318	168	954
庄内川	左岸	9.0k	県道	106	鳥ヶ池新田名古屋線	名古屋市中村区岩塚町字八ツ屋通	25,290	289	1,773
庄内川	左岸	13.0k	県道	106	鳥ヶ池新田名古屋線	名古屋市中村区日比津町古川	30,756	269	2,155
庄内川	右岸	18.0k	県道	162	松河戸西枇杷島線	名古屋市西区坂井戸町	9,482	29	628
矢田川	左岸	3.0k	県道	202	守山西線	名古屋市北区成願寺町	14,658	52	1,132
庄内川	右岸	21.0k	県道	162	松河戸西枇杷島線	名古屋市北区楠町味鈍	5,032	50	343
庄内川	右岸	29.0k	県道	162	松河戸西枇杷島線	春日井市松河戸町字村中	7,002	65	504

堤防道路総延長情報	
堤防道路延長 (km)	
名古屋市	45.8
春日井市	7.6
土岐市	4.6
多治見市	3.6
愛知県	8.1
岐阜県	0.5
西枇杷島町	0.9
大治町	0.6
甚目寺町	0.0
新川町	1.6
総延長	73.0

出典：平成 11 年道路交通センサス

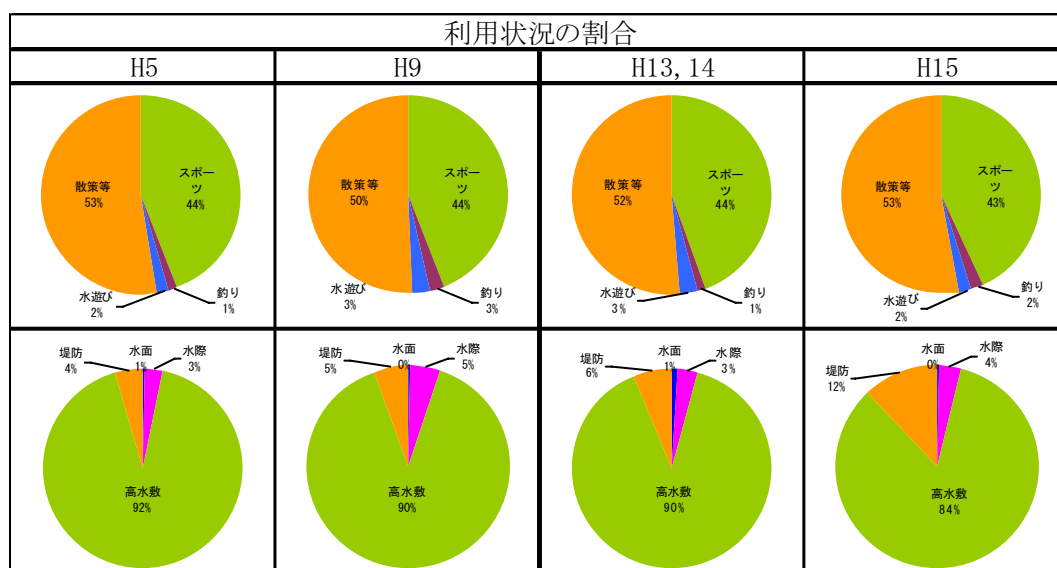
7-2 河川の利用状況

(1) 河川の利用実態

平成14年度の河川利用実態調査によると、庄内川の河川利用は、特にスポーツ、散策等による高水敷の利用が多い。年間の全体的な利用者は、約200～300万人で、河川の利用回数は、平成14年度で沿河市町の人口から見ると平均0.7回/年程度である。庄内川は、高水敷が公園として整備されていること、沿川が名古屋市などの都市部であることから河川の利用が盛んである。

表-7.3 庄内川の河川空間利用状況

区分	項目	年間推計値(千人)			
		H5	H9	H13, 14	H15
利用形態別	スポーツ	1,172	1,352	968	1,115
	釣り	38	79	28	53
	水遊び	54	86	63	48
	散策等	1,390	1,568	1,119	1,378
	合計	2,654	3,085	2,178	2,594
利用場所	水面	14	11	17	4
	水際	77	154	74	97
	高水敷	2,446	2,752	1,956	2,181
	堤防	117	168	131	312
	合計	2,654	3,085	2,178	2,594



出典：庄内川河川利用実態調査

(2) 舟運

庄内川の舟運は、観光船等の日常的な船の運航は行われていない。しかし、大学のボート部等による下流域の水面利用がなされており、各団体相互の横の連携、船台周辺の環境整備、地域社会との融和を目的に、名古屋大学、名古屋工業大学、愛知教育大学、南山大学、大同工業大学、中部電力株式会社からなる庄内川ボート協議会が組織されている。

表-7.4 漕艇利用状況

大学名	練習用ボート数					ボート練習範囲	
	1人乗用	2人乗用	4人乗用	8人乗用	合計	上流部	下流部
大同工業大学	4	1	2		7	近鉄橋	庄内新川橋
愛知教育大学	4	3	4	1	12	新前田橋	庄内新川橋
南山大学	4	3	2		9	近鉄橋	庄内新川橋
名古屋大学	4	2	2	2	10	近鉄橋	庄内新川橋
名古屋工業大学	4	2	2	2	10	JR橋より上流 0.5km	庄内新川橋より 下流0.5km
中部電力株式会社	6	2	1	1	10	新前田橋	庄内新川橋

出典：庄内川第一出張所資料、聞き取り調査



図-7.19 漕艇利用の状況と利用区間

(3) 内水面漁業

庄内川の内水面漁業権は、土岐川漁業協同組合(組合員数 1,335 人(H13 時点)、漁獲量 4,601kg(674.3 万円))に設定されている。内水面漁業権の設定状況は、以下に示す通りである。

表-7.5 内水面漁業権の設定状況

組合名	土岐川漁業協同組合
活動内容	漁業権指定範囲内の漁業権の配布
漁業権指定範囲	岐阜県、愛知県境～上流端
漁業権魚種名	アユ、アマゴ、コイ、ニジマス、オイカワ、フナ類、ウナギ、ウグイ
漁の方法	組合委員: 釣り、投網 一般: 釣りのみ
放流の有無	あり
備考	問い合わせ先: 岐阜県農政部水産振興室

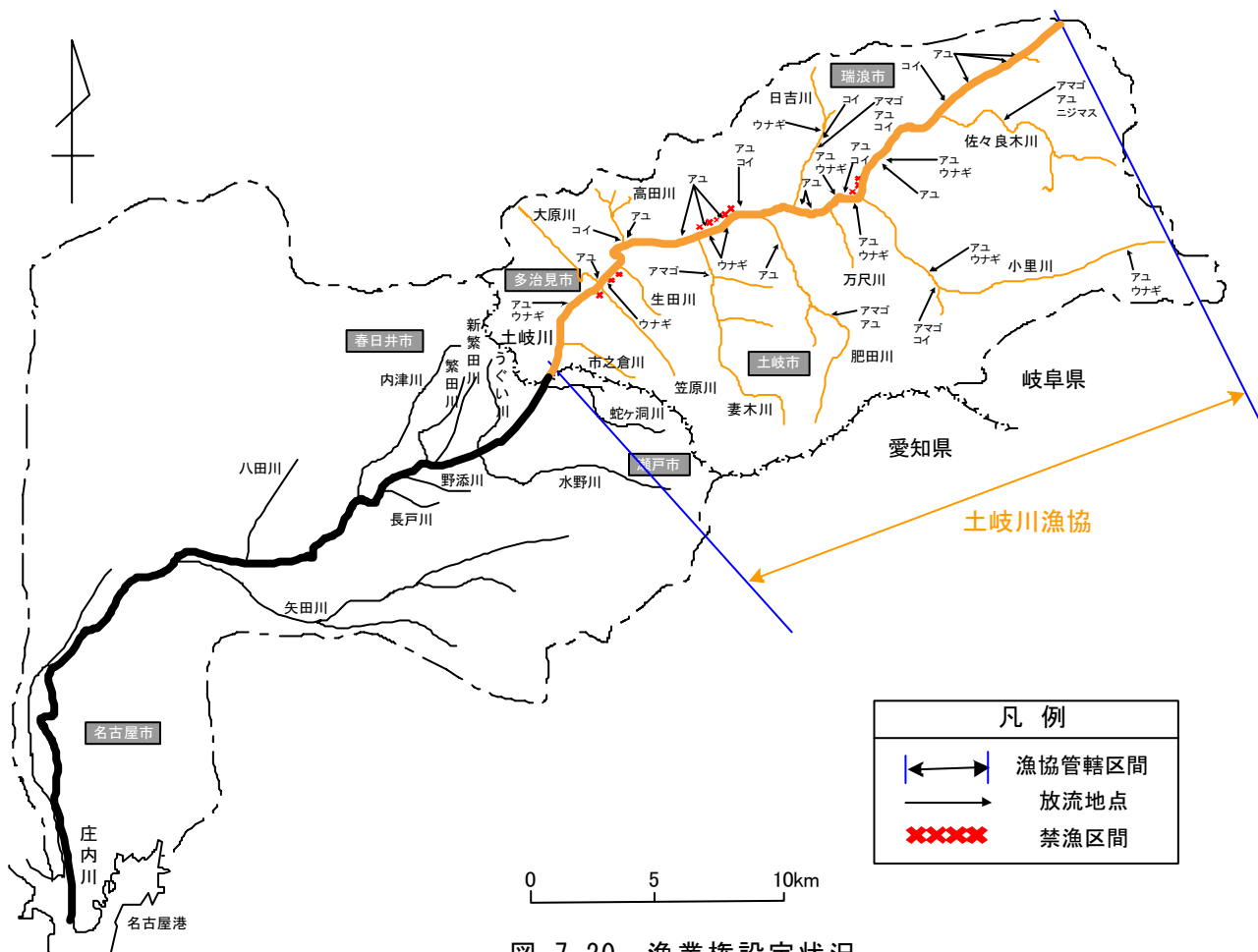


図-7.20 漁業権設定状況